

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0272000282 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 宏仁会 | | |
| 事業所名 | 清風荘グループホーム | | |
| 所在地 | 〒039-3321 青森県東津軽郡平内町大字小湊字薬師堂63-23 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年9月7日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人青森県老人福祉協会 | | |
| 所在地 | 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年10月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内は柱や格子戸等に木を使用し大正ロマンが漂い、利用者に和風のぬくもりを感じて頂けるような作りになっています。また、毎日の活動や作業は季節ごとにご利用者一人一人の個性やペースに合わせて無理強いをせず、その方の好きなこと、得意な事をして頂いています。食事や水分はご利用者の嗜好に合わせて楽しく美味しい食事がとれるように提供の仕方を工夫しています。おやつも高齢者の重要な栄養源と考え手作りを心がけています。誕生会は毎年テーマを決めて行いマンネリにならないように工夫しています。今年は誕生者個人の希望を聞いて外出したり、買い物に出かけたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念はホール目の目に付く場所に掲示されており、職員は理念を念頭に置きながらケアをしている。事業所内は木をたくさん使っており、和風の温かいぬくもりを感じ、大正ロマン漂う落ち着いた雰囲気である。おやつや食事利用者ととも準備している姿はアットホームで、無理のないペースで進められている。今年度の取り組みである誕生会は、利用者の希望を取り入れて思いを大切にしている姿勢が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の理念をホールに提示し、朝夕の申し送りや事業所会議で理念に沿った支援が出来るかどうか常に職員同士確認し理念にもとずき実践している。 | ホールに理念を掲げ、日々の申し送りや事業所会議で、理念に沿ったケアをしているのかを確認している。また、利用者一人ひとりのペースに合わせて、安らぎの中で馴染みの関係ができています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 納涼祭にご家族や運営推進委員の方を招待したり、町内で行われる敬老会や文化祭に出掛けたり、地元の公園やスーパーにでかけ職員、利用者とも地域の人と交流を図っている。 | 法人の納涼祭には家族や老人クラブ・社会福祉協議会が参加しており、町内の敬老祭りに出掛けたり、文化祭に利用者が出かけている。また、近所の保育園やマンドリンクラブの訪問があり、地域との交流ができています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所入居希望者の家族を対象にサロンを開き認知症について意見交換や支援方法について話し合っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 法人内でのいろいろな行事についてアドバイスをもらっている。特に今年は家族総会の内容が変わった為多くの意見をもらったので来年に活かしたい。 | 2ヶ月に1回開催され、法人内の行事や作業についてのアドバイスをもらったり、町内の行事についての連絡もあり利用者の参加に繋げている。また、利用者の近況報告をして意見をもらっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議で事業所の取り組みを紹介しながら出席した町の担当者から意見やアドバイスをもらっている。 | 日頃より、町役場の担当課と連絡を取り合いながら、事業所の現状を伝え、意見やアドバイスをもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内の全職員を対象にした全体会議の中で研修を行い、職員が身体拘束について理解したうえでグループホームの中で身体拘束のないケアに取り組んでいる。 | マニュアルを使用し、法人の全体会議にて研修を行っている。夜間は利用者の安全のため玄関の施錠をしているが、日中は施錠していない。また、行動や言葉の拘束も意識し、身体拘束のないケアが行われている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所会議で虐待の研修を行い虐待に当たる行為はないか話し合いをしたり、ケアプラン作成時のカンファレンスでも一人、一人について確認している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会を開催して制度の理解に努めている。現在活用している利用者はいないが、今後に向けて理解を深めるように研修を重ねて行きたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に本人や家族の意向を確認し不安や疑問がないか伺っている。また改定の場合も個別に説明を実施している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に家族も参加して頂き意見を伺い運営に反映させている。またご家族の面会時には必ず声をかけて個別に意見や要望を伺っている。 | 運営推進会議に家族や利用者が参加し、意見をもらい運営に活かしている。また、家族の面会時も個別に意見や要望を聞く機会と捉えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業所からの報告や管理者会議の内容、意見、提案、結果について、代表者にメールなどで報告している。 | 週2回の管理者会議にて、主任から管理者への進言の機会がある。毎日のメールにて定期的に代表者に連絡し、必要物品の購入などに反映されている。また、職員から上司にも言いやすい雰囲気があり、職員の生活状況も理解されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回人事考課を実施し、管理者は人事考課表をもとに職員と面談し日頃の労をねぎらい業務内容やこれからのスキルアップについて意志確認を行って向上心を持って働けるように努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員のスキルに合わせて認知症実践者研修に参加している。また、資格取得の支援実施。事業所内での毎月研修を行い、ケアに反映させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 認知症実践者研修など外部研修に参加した際や研修生を受け入れたときにお互いの問題を相談し合いサービスの質の向上につなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時に本人の気持ちをよく伺い、ケアプランに反映させているが、アセスメントに基づき随時内容を検討して援助にあたる。また入所した日に歓迎会を開き本人が早く新しい環境になじみ安心して過ごせるように関係づくりにつとめている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望をききながらケアプランに反映させている。入居された次の日にご本人の様子をお伝えしながらさらに心配していることなど伺っている。また、いつでも気になることがあったら連絡を下さるようお伝えしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の思いやその他の状況を確認し他事業所や担当ケアマネと連携して必要な支援を見極めながら対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一人一人の生活ペースや好み得意なことに合わせて、環境を整えたり、声掛けや見守りをしながら利用者が自ら行動できるように支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 運営推進会議に参加して頂き運営に関する意見を伺ったり、協力をお願いしている。また、家族に電話して直接本人の気持ちを聞いてもらったり、ご家族の声を聞いて安心してもらって家族の絆を大切にもらっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 自宅やお墓参りなどの外出支援を行ない、ご家族とのかかわりを持てるように努めている。また町内の行事や全事業所で行う行事には参加してもらって馴染みの人との関係が途切れないようにしている。 | お墓参りに行ったり自宅に戻ったりして、家族との関わりをもっている。また、町内の敬老祭りや夏祭りに出かけ、地域の人との馴染みの関係を続けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 活動や行事には皆で参加できるように支援している。また利用者同士お互いに仲間意識が持てるように話題の提供をしたり、座席など工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後に本人のアルバムを作成してお渡ししたり、終了後も相談に応じられることをお伝えしている。また亡くなられた方には物故祭を開催してご家族に参加して頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当職員が主となって本人の話をゆっくり聞いて意向を把握している。意向の把握が困難な場合は家族に話を聞いたり生活歴から把握するように努めている。 | 希望や意向は、担当職員が利用者から聞き取りしたり、職員間で話し合ったりしている。また、家族の面会時に生活歴等を聞きながら、利用者の意向を把握している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や担当ケアマネジャーから話を聞いてこれまでの暮らしの把握をしている。また昔を知っている人からの聞き取り等からサービス利用の経過の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個別にアセスメントをとったり毎日の申し送りで心身の状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当職員がカンファレンスシートを基に、家族や本人の意向を伺ったり、他職員に意見を聞いて介護計画を作成している。また毎月モニタリングをして次の介護計画に役立てている。 | カンファレンスシートに基づき、担当職員がセンター方式を利用し、課題やケアのあり方を職員全員で話し合い、プランを作成している。また、毎月モニタリングを行い、現状に沿ったプラン作成に役立てている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日ケース記録、ケアサービス実施表、申し送り簿に記入している。出勤時はそれらを確認してから業務に入ることで情報を共有している。課題や変化が見られた時はその都度申し送りで話し合い介護計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人一人の状況や環境を把握し事前にこちらから声を掛けたり、提案をしてその時にあった柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人が豊かで楽しい生活を送ることが出来るように季節やイベント、行事など機会をみて地域資源を把握し利用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は本人と家族の希望に沿ったところであり、受診をする際には本人と家族に相談してから受診し、受診結果についても報告している。 | 本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医であり、家族が受診対応できない場合は、職員が受診に付き添っている。また、体調不良時には、利用者本人と家族に相談して受診し、家族が付き添いできない場合は受診結果を報告している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと医療連携体制をとり定期的に訪問にきて利用者の健康管理をしてもらっている。健康状態で気になることは専用の伝達ノートに記入し見てもらい処置してもらったり指導を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は医療機関へ利用者の情報を提供している。入院中も本人の様子を伺いながら情報交換をして早期に退院できるように医療機関とやり取りをしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、契約を交わす時に看取りの説明をしている。事業所での看取りを希望する家族には書類を作成し医療機関と連携をとり、安心して最期を迎える事が出来るように支援している | 入居時に看取りについて説明しており、重度化し事業所での看取りを希望している場合は、訪問看護や特別養護老人ホームの看護師・医師と連携をとり、安心して最期を迎えることができる体制ができています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の対応について研修を実施している。またマニュアルを作成し、実践できるように研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルを作成し他事業所と一緒に避難訓練を実施している。また夜間想定にしたり新しく配属された職員を主に行っている。 | 災害についてのマニュアルを作成し、併設の特別養護老人ホームやケアハウスと合同で防災訓練を行っている。また、事業所内の避難訓練は夜間想定で行い、利用者も全員参加している。 | 町内の消防団や地域住民の協力が得られるように、協力体制をつくる事に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 法人内の全体会議の研修でプライバシー保護や尊厳と倫理について研修を実施している。事業所内でも利用者に対しての声掛けや対応について話し合っ職員同士気を付けている。 | 法人全体会議にて、プライバシー保護や尊厳・倫理について研修している。利用者への対応や声掛けに職員同士が注意し合い、利用者の人格を尊重している。また、トイレ使用時には、ドアやカーテンで二重に保護されており、入浴は個別対応し、プライバシーを守っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活において自分で決める事が出来るように声掛けしている。また遠慮したり気を使わない様に配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日頃の活動、食事、入浴など日常生活において常に利用者に伺いを立てて無理強いをせず本人の希望を聞いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の身だしなみは利用者に希望を聞いたり天候に合わせて援助している。外出時にはスカーフや帽子を合わせておしゃれに気を付けている。また定期的に散髪や毛染めパーマなどをかけてもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に会話をしながら食材を切ったりおかずの取り分けなどしている。またその日の体調や気分に合わせて食事内容を変えたり、行事食やおやつ作りを一緒にやっている。食後のかたづけや食器拭きをしてもらっている。 | 献立は利用者の体調を考慮し、特別養護老人ホームの管理栄養士と相談しながら作成している。また、準備を利用者とともに会話しながら、おかずの取り分けや盛り付けを行っている。事業所内の畑で作った野菜を、収穫し調理している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事水分の摂取量を記録し、一人一人の量を把握し少ない時は職員同士伝達しあって補水や食事が進むように工夫したものを提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後義歯洗浄、うがいの声掛け、見守り、不十分な所は職員が支援している。また就寝前には義歯洗浄剤に漬け置きしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 一人一人に合わせた排泄用品を使っている。また個人の排泄パターンや習慣に合わせてトイレに誘導し、トイレで自立した排泄が出来るように支援している。 | 排泄チェック表にてパターンをつかみ、トイレ誘導をし、自立した排泄を支援している。排尿回数が多い場合は、医師と相談して薬を処方してもらったり、尿漏れが多い場合は誘導回数を増やすなどの工夫が伺える。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 本人の排便パターンに合わせて飲み物の種類を決めている。またバランスボールを使って足踏み運動や園内散歩など行って便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている | その日の体調や気分に合わせて入浴できるように柔軟に対応している。また浴槽に浸かる回数や温度は本人に希望を聞きながらゆっくり入っていただいている。 | 曜日を決めずに、利用者の気持ちに寄り添った声掛けを工夫している。また、本人の希望で浴槽に入る回数や、温度も好みに応じており、個別にゆったりと入浴できている。重度化した場合は特別養護老人ホームの機械浴を利用することもある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調に合わせて休める場所や時間を決めている。また就寝前には義歯洗浄、着替え、排泄など済ませたり、見たいテレビなどみてくつろいでから休んでもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の薬の処方箋はいつでも見る事が出来るようにファイルにとじている。また薬が追加になったり、変更があった時は副作用に気を付け変化がないか職員が周知し観察をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者それぞれの生活歴を生かし活動や軽作業をお願いし、ねぎらいの言葉を掛けています。また各利用者の好みや楽しみを把握し個々に支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 事業所で作っている畑に行き作業を行ったり、天気の良い日は外でお茶会を行っている。また、季節ごとに自宅や馴染みの地域に出掛けたり、誕生日には本人に希望を聞いて外出の計画を立てている。 | 利用者の希望に沿い、近くのスーパーでおやつを購入し、公園にドライブしながらお茶会を開くこともある。今年度は、誕生会に本人の希望に沿った外出先を選んでもらい、水族館などに行ったりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望者には財布をもってもらったり、外出時には自分でお金を支払ってもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人から希望があったり、必要と感じた時には直接本人と家族が話せるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が暑さ、寒さで不快を感じない様に空調の調整やブラインドの開け閉めをまめにしている。また膝掛けを使っている。職員はうるさくならないように話声や歩き方に気をつけている。また季節を感じる装飾をしている。 | 娯楽室と食堂を分け、落ち着いた雰囲気である。壁飾りは秋のもみじやイチョウを利用者とともに作り、季節感を出している。また、体温調整にも心がけ、ひざ掛けを利用しながら温度に配慮されている。採光も眩しさを感じないようにブラインドをし、程よい明るさにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下や食堂は好きな所で休めるようにところどころに椅子を置いている。また娯楽室では本人に合った椅子を準備したり気の合う人と話せるように座るへ誘導している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に利用者が自宅で使っていたものや大事にしている物を持って来ていただいている。また配置など本人や家族に相談して決めている。 | 居室には、本人の馴染みのタンスや仏壇をおいている。また、自宅で使っていた布団を使用し、心地よく過ごせる工夫が伺える。また、写真や手紙なども飾っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下は安全に1人で歩行できるように椅子以外は置かない様にしている。またトイレや居室の場所が易く見つけやすいように利用者の目線に合わせて表札を設置している。 | | |